

林木遺伝資源情報

第13号 - 3 2008.3

独立行政法人 森林総合研究所林木育種センター

保存コレクションシリーズ No.8

保存コレクションシリーズ - アカマツ・クロマツの地域品種 -

森林総合研究所林木育種センター 遺伝資源部 岩泉 正和

1 はじめに

アカマツは、北は青森県下北半島から南は鹿児島県屋久島までの冷温帯から暖温帯にかけて分布し、尾根筋等によく生育します。また垂直分布では、内陸部の丘陵帯から海拔2,000m近くの山地帯まで生育しています。一方クロマツは、北は下北半島から南は鹿児島県のトカラ列島まで分布し、アカマツとは異なり沿岸地域で生育することが多く、垂直分布は主に0～500mまでの丘陵帯です。

ともに日本の代表的なマツ属の針葉樹であり、日当たりが良く、やせた立地に先駆的に優占して生育しています。両樹種とも気温や土地に対する適応範囲の広い樹種と考えられており、分布域は広域にわたっていますが、それぞれの樹種には伝統的に優良材を産出する著名な産地が幾つかあり、地方名をつけた地域品種として知られています。



写真 - 1 アカマツ地域品種の遺伝資源保存園
(林木育種センター)

2 保存状況

森林・林業百科事典(日本林業技術協会編、2001)では、アカマツの地域品種として青森県のカッチマツ(甲地松)から宮崎・鹿児島県のキリシママツ(霧島松)までの12品種、またクロマツの地域品種として熊本県のもどウマツ(茂道松)及び宮崎県のムカサマツ(穆佐松)の2品種が取り上げられていま

す。このうち、アカマツについては山口県の名メラマツ(滑松)、高知県のオオドウマツ(大道松)及び大分・宮崎県のヒュウガマツ(日向松)を除く9品種が、またクロマツについてはムカサマツ1品種が、それぞれ林木育種センター、東北育種場及び関西育種場に保存されています。林木のジーンバンク事業で保存されているアカマツ・クロマツの樹種別、育種基本区別の保存品種の一覧を表-1に示しました。アカマツについては全体で計13品種、クロマツにつ

表 - 1 林木のジーンバンク事業で保存されている
代表的なアカマツ及びクロマツの地域品種

1. アカマツ

| 育種基本区 | 都道府県名 | 品種名 |
|-------|--------|-----------|
| 東 北 | 青森 | カッチマツ |
| | 岩手 | ミドウマツ |
| | 岩手 | トウザンマツ |
| | 山形 | シラハタマツ |
| 小 計 | | 4品種 |
| 関 東 | 福島 | シツママツ |
| | 山梨 | スワノモリマツ |
| | 長野 | キリウエマツ |
| 小 計 | | 3品種 |
| 関 西 | 鳥取 | ダイセンマツ |
| | 島根 | (バカクマツ) |
| | 愛媛 | (ツシママツ四国) |
| | 高知 | (セリカワマツ) |
| 小 計 | | 4品種 |
| 九 州 | 熊本 | (モドウマツ) |
| | 宮崎・鹿児島 | キリシママツ |
| 小 計 | | 2品種 |
| 合 計 | | 13品種 |

2. クロマツ

| 育種基本区 | 都道府県名 | 品種名 |
|-------|-------|---------|
| 九 州 | 鹿児島 | (ウシネマツ) |
| | 宮崎 | ムカサマツ |
| 合 計 | | 2品種 |

(注) 平成19年4月に公開した保存目録から作成。

品種名は森林・林業百科事典(2001)に記載のもの。

なお、同事典に未記載のもののうち主なものについて、() 書きで示した。

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税込で3,349円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。メールまたは電話でお問い合わせください。

いては計2品種が保存されており(平成19年4月現在)これらの地域品種の多くは、母樹別に収集した種子に由来する実生家系として保存されています。

以下に、保存されているアカマツ地域品種のうち、特徴的なものについて紹介します。

(1) 岩手県のアカマツ地域品種

岩手県内のアカマツは「南部アカマツ」と総称され、材が重硬で強度が高い割には加工性に優れ、昔から住宅の梁などの建築用材、土木用材として利用されています。また樹脂成分が多いので、敷居、床板などにも適しています。「南部アカマツ」には主に、先述のミドウマツ(「御堂松」; 内陸北部原産) トウザンマツ(「東山松」; 県南の東磐地方原産)にくわえ、県北の久慈地方原産のサムライハママツ(「侍浜松」)の3大品種が知られています。そのうち前者2品種については林木育種センター構内に、また東北育種場奥羽増殖保存園内では後者も含めた3品種が、実生家系で保存されています。



写真-2 奥羽増殖保存園内に保存している南部アカマツ
(ミドウマツ:写真中央)

(2) 長野県のキリウエマツ

長野県の浅間山麓に自生するアカマツは、浅間山の中腹でよく雲のたなびく位置に生育しているとい

う意味から通称キリウエマツ(「霧上松」)と名付けられました。成長が良く、幹が通直で枝下高が高いことが特徴的です。また材質の良さも古くから知られており、樹脂が少なく製材が容易なことから、構造材はもちろん、地元では建具、長押などにも用いられてきました。このように有用な地域品種の遺伝資源を保存する目的で、林木育種センター及び長野増殖保存園内には、実生家系でキリウエマツが保存されています。



写真-3 長野増殖保存園内に保存しているキリウエマツ

3 おわりに

両樹種については、以上に挙げた代表的なものも含め、数多くの地域品種が存在し、それぞれの地域で利用されていますが、これらの造林上の特性や遺伝的特性についてはあまり明らかにされていません。今後は保存個体について定期的に特性調査を行い、蓄積したデータを基に、既にスギの地域品種等で進められている(生方、2006)ような、特性評価の実施や特性表の作成を行っていくこと等が重要であると考えます。

引用文献

- 勝田 昶：アカマツ。(森林・林業百科事典・日本林業技術協会編、1234pp、丸善、東京) 4-5 2001
 勝田 昶：クロマツ。(森林・林業百科事典・日本林業技術協会編、1234pp、丸善、東京) 227 2001
 生方正俊：保存コレクションシリーズNo.2 スギの地域品種。林木遺伝資源情報 第10号-5 2006